Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によって的確に把握し、市政運営の有効な資料とする。

２．調査の設計

（１）調査地域　　相模原市全域
（２）調査対象　　18 歳以上の相模原市在住者
（３）標 本 数　　3,000 人
（４）抽出方法　　住民基本台帳からの等間隔系統抽出
（５）調査方法　　郵送調査法（郵送配付－郵送回収、はがきによる督促１回）
（６）調査期間　　令和５年６月 23 日～７月 14 日
（７）調査機関　　株式会社ＴＤＳ　神奈川営業所
（８）有効回収数（率）　1,277（42.6%）

３．調査の内容

令和５年度　市政に関する世論調査は、10 の項目について調査した。

調査項目	設問番号
1　まちづくりについて	問１～問３
2　市のロゴデザインについて	問４
3　オンライン学習による生涯学習活動に関する意識について	問５
4　障害者への理解促進について	問６～問７
5　結婚について	問８～問11
6　ユニバーサルデザインについて	問12～問13
7　市の施設の駐車場の有料化について	問14～問16
8　ＩＣＴ（アイシーティー）に関する利用状況について	問17～問20
9　学校教育について	問21～問27
10　世論調査について	問28
基本属性（年齢、居住地等）	Ｆ１～Ｆ８

４．区別

地　域	地区（対象住所）
1　緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2　中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3　南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

５．区別・地区別回収状況

区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	299	123	41.1%
	大沢	139	46	33.1%
	城山	31	19	61.3%
	津久井	98	46	46.9%
	相模湖	95	43	45.3%
	藤野	34	15	44.1%
	緑区計	696	292	42.0%
中央区	小山	86	32	37.2%
	清新	132	44	33.3%
	横山	59	27	45.8%
	中央	147	115	78.2%
	星が丘	76	24	31.6%
	光が丘	112	44	39.3%
	大野北	255	85	33.3%
	田名	128	46	35.9%
	上溝	141	57	40.4%
	中央区計	1136	474	41.7%
南区	大野中	260	93	35.8%
	大野南	337	161	47.8%
	麻溝	74	27	36.5%
	新磯	55	27	49.1%
	相模台	190	66	34.7%
	相武台	78	33	42.3%
	東林	174	71	40.8%
	南区計	1168	478	40.9%
地区不明		0	33	－
合計		3000	1277	42.6%

６．集計結果を見る上での注意事項

（１）表、グラフのｎまたは、（　）内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてｎを基数とした百分率で表わし、小数点第２位を四捨五入した。このため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。

（２）集計結果の表やグラフは、レイアウトの都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。

（３）回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は 100%を超える場合がある。

（４）回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。

（５）今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が 1,277 である回答が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.56 以内（47.44%～52.56%）とみることができる。

＜標準誤差の表＞

回答比率 回答者数	10％または90%程度	20％または80%程度	30％または70%程度	40％または60%程度	50%程度
1,277	±1.68	±2.24	±2.56	±2.74	±2.80

$$※標本誤差 = \pm 2\sqrt{\frac{回答比率（1－回答比率）}{回答者数}}$$

※標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。